

[八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策]

特産園芸作物の病虫害防除対策

～アシタバ苗立枯病に対するダゾメット粉粒剤登録適用拡大のための薬効・薬害試験～

竹内 純・竹内浩二*・樺澤美紀*²

(島しょセ八丈・*島しょセ大島・*²食料安全課)

【要 約】適用拡大を目指し、アシタバ苗立枯病に対するダゾメット粉粒剤の薬効・薬害試験を大島および八丈島で実施した。その結果、本剤の 30kg/10a 施用は両試験において優れた防除効果を示し、薬害も認められなかった。本剤の実用性は高い。

【目 的】

アシタバには多種の土壌病害虫が発生し、大きな生産阻害要因となっている。しかし、アシタバには土壌消毒剤および土壌施用の薬剤の登録がなく、有効な防除対策を講じることができない状況である。そこで、頻発するアシタバ苗立枯病に対するダゾメット粉粒剤（商品名：ガスタード微粒剤）の適用拡大を目指し、大島および八丈島において、一般委託試験方法に準じて薬効薬害試験を実施する。

【方 法】

接種：アシタバ苗立枯病菌 (*Rhizoctonia solani* Kühn AG4) のフスマ土壌培養菌体を 200g/m²濃度で試験区に混和。供試品種：「八丈系」。施用薬量：30kg/10a。

大島試験概要：2008年11月7日播種。播種量 13.5mL (2.6g) / m²。条間 10 cm。1区 9条。10 m²/区，3連制。播種溝部調査区任意 100粒を囲みマークキング。播種 21日前処理区 2008年10月17日土壌全面混和および被覆，10月31日被覆除去耕耘。播種 10日前処理区平成 2008年10月28日土壌全面混和および被覆，11月4日被覆除去耕耘。

八丈試験概要：2010年10月31日播種。播種量 15mL (3.1g) / m²。条間 10 cm。1区 9条。12 m²/区，3連制。播種溝部調査区任意 100粒を囲みマークキング。播種 21日前処理区平成 2010年10月10日土壌全面混和および被覆，10月24日被覆除去耕耘。播種 10日前処理区 2010年10月21日土壌全面混和および被覆，10月28日被覆除去耕耘。

調査方法：各区マークした 100粒播種溝部の生存株率および生存株の発生程度を調査し、生存株率、発病株率および生存株の発病度を求めた。防除価は各処理区の発病度の平均値を元に算出した。薬害については散布時および最終調査時に肉眼により観察した。発病度 = [Σ (程度別株数 × 指数) / 4 × 調査株数] × 100，指数 0：無発病，1：僅かに褐変が認められる，2：褐変面積が 25%未満，3：同 25～50%，4：枯死寸前～枯死，防除価 = (1 - 処理区の発病度 / 無処理区の発病度) × 100。判定日：大島は播種 175日後（5月1日），八丈は播種 190日後（平成 23年5月9日）。

【成果の概要】

1. 最終調査時における防除価は何れの試験でも両処理期間で 97.6～100 と卓効を示した。また全試験全試験区において薬害は認められなかった（表 1，2）。
2. まとめ：ダゾメット粉粒剤はアシタバ苗立枯病の防除薬剤として実用性が高いことが確認された。本報の薬効・薬害および既報の作物残留試験データをもとに、平成 23年 11月 30日、「アシタバ」，「苗立枯病(リゾクトニア菌)」として適用拡大された。

表1 アシタバ苗立枯病に対するダゾメット粉粒剤の防除効果および薬害（大島）

供試薬剤	施用量 /10a	処理方法	区制	2009年5月1日(播種175日後)				薬害	
				生存株率(%)	発病株率 発病株/生存株	発病度	防除価	通常	倍量
ダゾメット粉粒剤 (有効性分98.0%) Lot.No:09.10D7E05	30kg	播種21日前処理	I区	44	0	0		-	-
			II区	46	0	0		-	-
		14日間被覆	III区	40	0	0		-	-
			平均	43.3	0	0	100		
ダゾメット粉粒剤 (有効性分98.0%) Lot.No:09.10D7E05	30kg	播種10日前処理	I区	36	2.8	2		-	-
			II区	42	0	0		-	-
		7日間被覆	III区	39	0	0		-	-
			平均	39	0.9	0.7	99.0		
病原菌無接種区 (生存率対照区)		病原菌	I区	45	0	0			
			II区	40	0	0			
			III区	41	0	0			
			平均	42	0	0			
無処理区 (発病対照区)		無接種	I区	28	85.7	50			
			II区	19	94.7	77.6			
			III区	26	84.6	62.3			
			平均	24.3	88.3	63.3			

防除価は発病度の平均値から算出した。

薬害, - : 薬害なし, + : 薬害あり

表2 アシタバ苗立枯病に対するダゾメット粉粒剤の防除効果および薬害（八丈）

供試薬剤	施用量 /10a	処理方法	区制	2011年5月9日(播種190日後)				薬害	
				生存株率(%)	発病株率 発病株/生存株	発病度	防除価	通常	倍量
ダゾメット粉粒剤 (有効性分98.0%) Lot.No:09.10D7E05	30kg	播種21日前処理	I区	36	0	0		-	-
			II区	40	0	0		-	-
		14日間被覆	III区	38	0	0		-	-
			平均	38	0	0	100		
ダゾメット粉粒剤 (有効性分98.0%) Lot.No:09.10D7E05	30kg	播種10日前処理	I区	30	3.3	2.5		-	-
			II区	32	3.1	2.3		-	-
		7日間被覆	III区	36	0	0		-	-
			平均	32.7	2.1	1.6	97.6		
病原菌無接種区 (生存率対照区)		病原菌	I区	35	0	0			
			II区	41	0	0			
			III区	36	0	0			
			平均	37.7	0	0			
無処理区 (発病対照区)		無接種	I区	20	90	67.5			
			II区	22	81.8	61.3			
			III区	17	94.1	70.6			
			平均	19.7	88.6	66.5			

防除価は発病度の平均値から算出した。

薬害, - : 薬害なし, + : 薬害あり